

氏 名	所 属	職 名	学 位
長谷川千春	健康科学部 健康スポーツ科学科	助教	アーサー王文学修士
資 格			
第 187 回公開 TOEIC 925 点			
主 な 著 書 ・ 原 著 論 文			
年 度	タイトル（出版元又は掲載誌）		
平成 22	ウォルター・スコット『アイヴアンホー』における騎士道精神の推移（英米文化 40 号）		
平成 23	イギリス騎士道の原形としての <i>Beowulf</i> 」（鶴見英語英米文学研究 12 号）		
平成 23	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> における誓約と名誉—騎士としての理想と人間的弱さ—（ <i>Tsurumi Review</i> 41 号）		
平成 24	騎士道研究の射程と可能性: <i>The Study of Chivalry: Resources and Approaches</i> を読む（日本大学歯学部紀要 40 号）		
平成 27	‘The Terms Chivalry in English and Bushi-do in Japanese: Linguistic Heritage as Implications of Differences in Cultural Norms’ <i>Multilingual Perspectives in Geolinguistics: International Conference of the American Society of Geolinguistics in Honor of its 50th Anniversary</i> (Lulu Press)		
平成 28	Magic, Prophecy and Word Power: Merlin's Authoritative Voice in the Middle Ages (語学教育研究論叢 [大東文化大学外国語学部] 33 号)		
平成 29	『英米文学概論（含文学史）』授業評価アンケートに表れる学生の声：物語を通して伝わる知的好奇心と道徳観（教職課程センター紀要 [大東文化大学] 2 号）		
平成 30	『アーサー王の死』の著者サー・トマス・マロリーについて（国際アーサー王学会日本支部オフィシャルサイト「アーサー王伝説概説」）		
令和元	騎士社会からの逸脱と復帰：マロリーの「トリストラムの物語」における狂気からの回復（大東文化大学紀要人文科学 第 56 号）		
令和元	騎士と宗教：西洋理想道徳の萌芽と形成（図書新聞 3453 号）		
令和元	ジェントルマンからサムライへ：日本武士道野球における英国騎士道（立命館言語文化研究 第 31 巻 1 号）		
令和 2	ガウェインと聖杯：マロリー『アーサー王の死』における信仰と反抗（中世英語英文学研究の多様性とその展望 春風社）		
令和 5	【書評】 Peter R. Beaven. <i>Building English Vocabulary with Etymology: Introduction</i> (Andover: Cheshire Press, 2018) ( <i>Studies in Medieval English Language and Literature</i> 38 号)		
所 属 学 会			
英米文化学会、日本英文学会、日本中世英語英文学会、国際アーサー王学会日本支部、日本比較文化学会			
主 な 社 会 的 活 動			
年 度	活 動 内 容		
平成 27	英米文化学会事務局員「現在に至る」		
平成 28	日本中世英語英文学会東支部会計監査「平成 30 年 3 月 31 日まで」		
平成 30	英米文化学会評議員「現在に至る」		

令和 元	日本中世英語英文学会東支部幹事「令和 5 年 3 月 31 日まで」
令和 2	日本中世英語英文学会東支部幹事 会計担当「令和 5 年 3 月 31 日まで」
令和 3	国際アーサー王学会日本支部 web 委員「現在に至る」